

登山月報

2013年新春懇談会を開催	1
変わる! 日山協	2
積雪期レスキュー講習会(西部地区)を開催	4
第51回 Mountain World	5
第26回 海外登山女性懇談会	6
日本の山岳シリーズ切手・第2集が発行	7
第3回日本山岳グランプリを受賞して	8
JMA、寄贈図書、編集後記	8
訃報 史占春先生ご逝去	9

2013年新春懇談会を開催

恒例の新春懇談会が1月19日(土)にアルカディア市ヶ谷で開催された。当日は駐日ネパール大使のマダン・クマール・バッタライ閣下をはじめ(独)国立登山研修所・渡邊雄二所長、日本勤労者山岳連盟・西本武志会長、(公社)日本山岳会・尾上昇会長など大勢のご来賓、招待者を迎えて、150余名の参会となった。

はじめに八木原副会長が開会を宣言し、神崎会長が主催者を代表して挨拶を行った。「本年4月1日から日山協は公益社団法人として船出する。責任ある団体としてわが国登山界の先頭に立って強いリーダーシップを発揮します」と力強く挨拶された。

引続いてご来賓を代表してバッタライ大使、渡邊所長、西本会長、尾上会長からご挨拶を頂戴した。

来賓祝辞の後、各種表彰が行われた。先ず第3回日本山岳グランプリは、永年にわたり、わが国のヒマラヤ登山者の実態把握及び遭難状況に関する情報を詳細に収集して、その現状を登山界に提供。また、日本国内の死亡遭難事故を調査し、種々の観点から分析して登山界に遭難事故の警鐘を鳴らすなど、登山界に多大な功績を残された山森欣一氏(日本ヒマラヤ協会会長)が顕彰された。

続いて日山協や各岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対して功労表彰が授与された。受賞者は、小泉昌弘(岩手)、小島守夫(栃木)、羽野順一(群馬)、天津邦之(島根)、工藤文昭(熊本)、井上邦彦(山形)、

切嶋良(東京)、佐原晴人(愛知)の各氏とIFSCクライミング・ワールドカップ2012でワールドランキング1位になった安間佐千選手と同2位となった野口啓代選手。

次いで平成24年度の海外登山奨励金の授与式が行われ、シスパーレ登山隊の平出和也氏に神崎会長より奨励金の目録が渡された。

次に第62回日本スポーツ賞(読売新聞社制定)に輝いた渡邊玉枝(世界最高峰の女性最高齢登頂者)さんが紹介された。

その後、呼名によるご来賓の紹介があり、漸く祝宴となった。

乾杯は、坂口三郎、瀧島清、国澤鎮雄、城隆嗣、田中文男、栗飯原一成、本木總子各顧問によって行われ、代表して田中顧問のご発声で祝杯を上げた。

会場にはIFSCクライミングWC印西大会の録画が上映され、なごやかな懇談のひと時を過ごしていただいた。

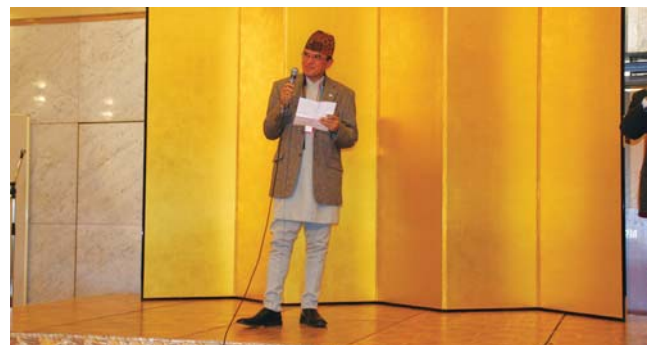
宴なかばで本協会の代表選手が紹介され、24年度の成果と来年の抱負を語って貰った。

その後、山森氏に受賞のお言葉を頂いた後、日本山岳ガイド協会の磯野剛太理事長に中締めをして頂き、最後に内藤副会長より閉会宣言があり、お開きとなった。

(記 尾形好雄)



会場でのご歓談



ネパール大使のスピーチ

変わる! 日山協

日本山岳協会は、4月1日より公益社団法人
日本山岳協会として新たに船出をします。
そのために、明確な理念と活動目標を定め、
わが国登山界を牽引する責任組織として、社会
に親しまれ、登山界に期待される日本山岳協会
を目指します。

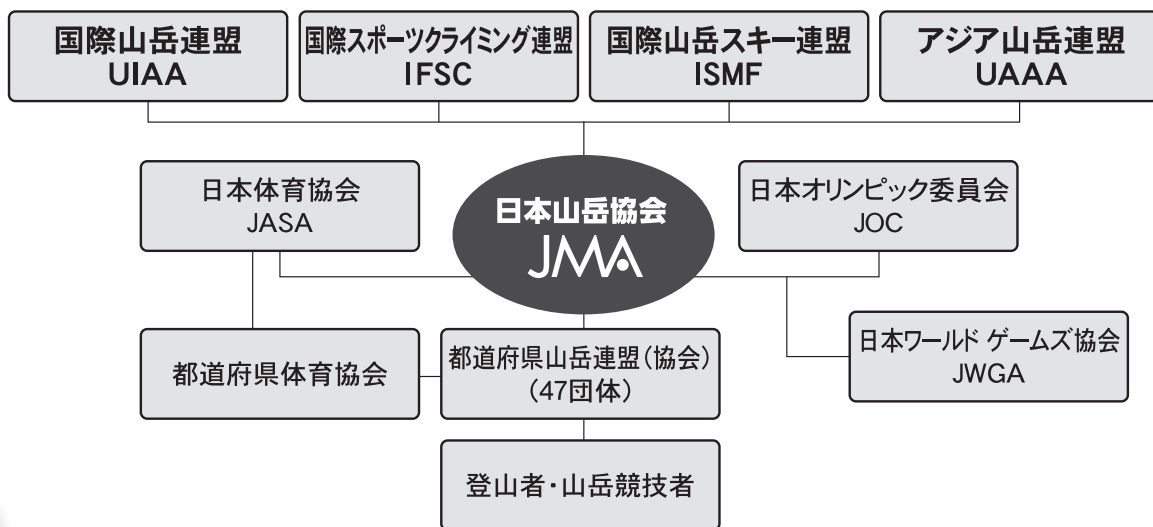


1 日本山岳協会は「公益社団法人」^(※1)になります

これまでの「社団法人 日本山岳協会」は、平成25年4月1日をもって
「公益社団法人 日本山岳協会」になります。

【これまでの経過】

平成19(2007)年10月～	今後の日山協の在り方を「諮問委員会」に諮問
平成20(2008)年5月14日	諮問委員会が「日本山岳協会の未来について」答申
平成20(2008)年12月1日	国の公益法人制度改革により、日山協は、法律に基づき「特例民法法人」に移行
平成23(2011)年6月～	新定款・細則等の策定開始
平成24(2012)年3月11日	総会において、公益法人への移行を決議
平成24(2012)年8月14日	内閣府公益認定等委員会に認定申請
平成24(2012)年9月6日	内閣府公益認定等委員会が審査開始
平成24(2012)年9月14日	内閣府公益認定等委員会がヒアリング
平成24(2012)年11月16日	内閣府公益認定等委員会が、日山協が認定基準に適合する旨、内閣総理大臣に答申
平成25(2013)年3月下旬	内閣府より「認定証」が交付される予定
平成25(2013)年4月1日	公益法人日本山岳協会発足



2 公益社団法人になると…

公益法人3法(法人法・整備法・認定法)に基づく団体となり、法律に定められた23(※2)の事業に限定された、公益目的事業を行うことになります。

【公益社団法人になると】

- ◆公益目的事業と認定された事業は、非課税になります。
- ◆公益社団法人に寄付した人の節税メリットがあります。
- ◆公益目的事業費率が50/100以上の支出制限があります。
- ◆法人財産の用途が限定され、保有する財産も制限されます。
- ◆公益法人の理事等の役員の権限と責任(任務懈怠責任、第三者責任損害賠償責任など)が厳しくなります。
- ◆より高い法令順守と目標に向けた意思決定、合意形成をし、集団としての円滑な運営が求められます。

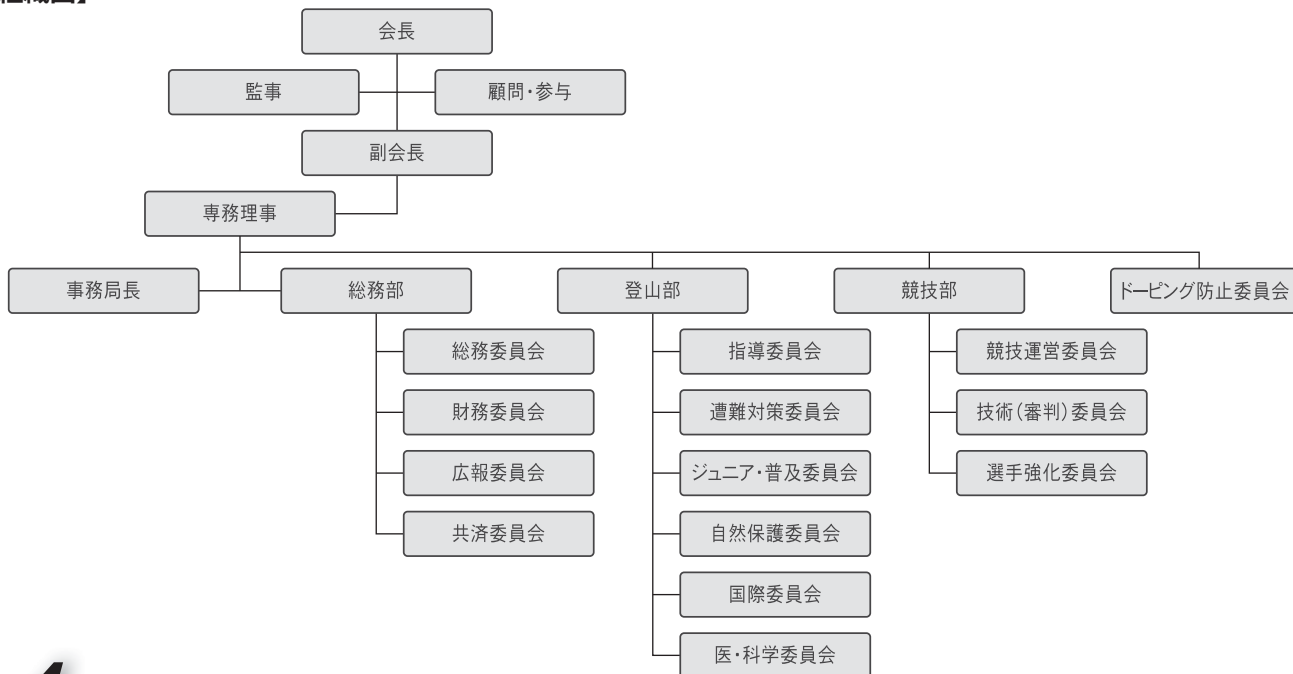
※1 公益社団法人とは、平成20年12月1日施行の「公益社団法人及び公益財団法人の認定に関する法律」に基づいて設立される法人の事です。
※2 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の第2条第4項で公益目的事業の定義として「学術、技芸、慈善その他の公益に関する別表各号に掲げる種類の事業であって、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものをいう。」と規定されている。日山協が行う公益目的事業は、別表に掲げられている23項のうち第9号の「教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養することを目的とする事業」に当てはまるとして申請し、認定された。

3 公益社団法人 日本山岳協会のしくみと体制

日本山岳協会は全国47都道府県山岳連盟(協会)に加盟する約1,400団体、50,000人で構成された、わが国の登山界を統括する団体です。

また、執行体制は、25名の理事で構成し、理事のうち1名が会長(代表理事)、会長を除く3名が副会長、1名を専務理事、8名以内を常務理事とし、会長、副会長、専務理事、常務理事が業務執行理事となり業務を執行します。

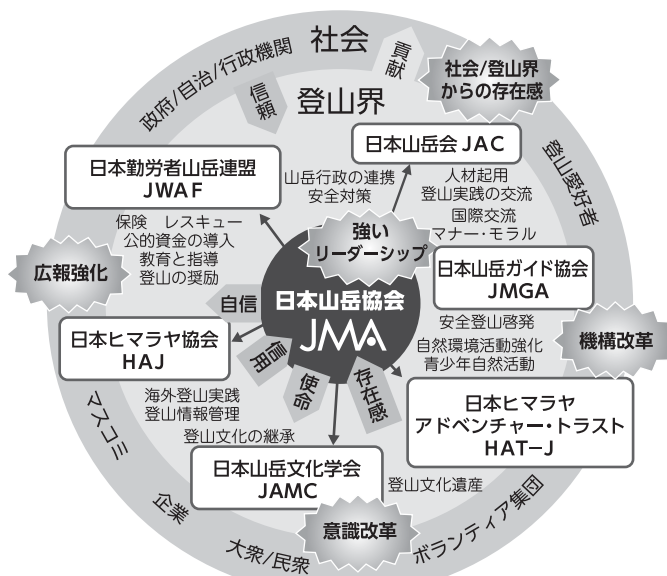
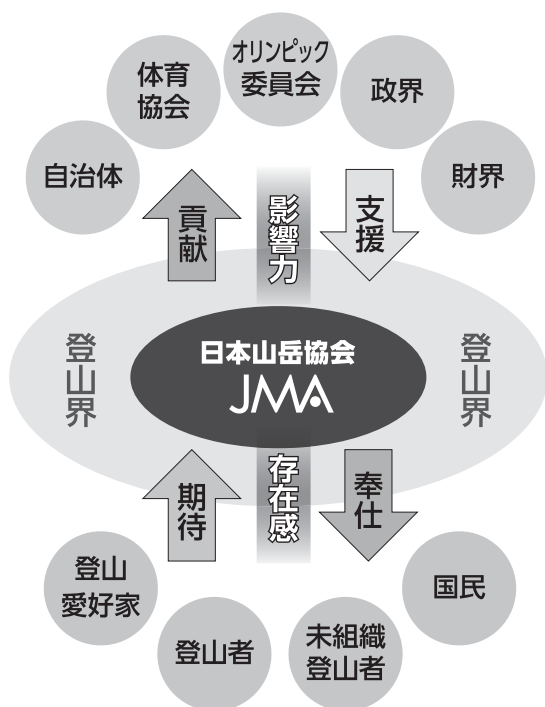
【組織図】



4 公益社団法人 日本山岳協会が目指すもの

公益社団法人 日本山岳協会は、わが国の登山界を統括する組織として、「安全登山の啓発」「山の環境保全」「山岳文化の発展」のため、正しい登山及び山岳スポーツを指導・普及して、その健全な発展を図るとともに、登山を通して体育の振興、登山界の交流に寄与します。

公益社団法人 日本山岳協会は、他の山岳諸団体と連携しながら、安全登山を第一に、遭難事故の防止、山の自然保護、スポーツライミングの普及などに取り組み「自立した登山者の育成」や「山の自然と登山者の共生」のために、わが国の登山界の先頭に立って強いリーダーシップを発揮します。



わが国の登山界の現況

平成24年度の積雪期レスキュー講習会が1月25日(金)～27日(日)に富山県の国立登山研修所でtotoの助成のもと開催された。インフルエンザや豪雪の影響で7名のキャンセルがあり最終的に受講生は30名、講師は予定通り14名で対応した。今年も若い受講者や女性が多く、活気のある講習会となった。

クラス1は日本雪崩ネットワーク(JAN)のカリキュラムに従い、雪崩についての専門的な学習とビーコンやプローブの使い方に関する初歩的なスキルを中心に服巻常任委員が主任講師を務め、JANより五月女講師を招いての講習となった。当初8名の予定であったが豪雪の影響で結局半数の4名が参加。逆にマンツーマンに近い形でみっちり雪や雪崩について学ぶことが出来た。「初級クラス」のイメージがあるせいか講習生のほとんどに冬山に対する個人装備の不備が見られた。これについては今後、主催者側の事前対応見直しも検討すべきと反省した。また、雪崩の発生メカニズムと過去の雪崩事故事例について全体講義を早乙女講師に御指導いただき好評を得た。

クラス2は講習生13名が2班に分かれ、瀬藤常任委員と石田常任委員が主任講師を務めた。このクラスは雪崩についての講習のほか、ビーコンとプローブを連携させた基本的な捜索手法をはじめ、ショベルによる掘出し方法を学びダミーを使用しての雪崩事故発生のプシミュレーションも行った。ダミーは両具の中に詰め物を施し、人の大きさを模した。掘り出した受講生の中にはリアル性に驚いた方もあり、実際の現場を想像させるような臨場感を演出する事が出来た。特に掘り出し方についてはV字コンベアを駆使し、掘り出した後の手当てに要するスペースを考慮した実践的対応が図れていた。

夜の机上講習では低体温症について学んだ。このクラスはモンベルからの若い参加者が多く、和気あいあいとした雰囲気の中、効率的で効果的な講習を行う事が出来た。

クラス3は町田が主任講師を務め、実際の事故現場を想定、その対応をテーマとした実践的な講習を行った。ビーコン操作やプロービング、掘り出し等基本動作を復習するのに加え、搬送に必要な負傷者のパッケージング(梱包)や必要なロープワーク、更には雪上での支点の取り方やビパークについて学んだ。支点の講義にあっては雪のブロックが最終的には強度を左右する事を体感し、ほとんどの受講者が新たな知見を得たようである。机上講習では低体温症と雪崩に対する一

連の動作についてビデオを視聴しながら学習した。他とは異なりクラス3の特徴は消防関係者がいる事である。彼らの目的はレスキュー技術に特化している部分が見受けられるため、我々登山者とは取り組む姿勢もさることながら基本的なスキルも異なる。もちろん全員現役のレスキュー隊員である。また「クラス3は上級」と言った見方があるのか、山岳関係者は他のクラスに比べ年齢的にもベテランが多い傾向にある。このギャップから講習スピードにも当然差が生じる。結局2班に分けて講習せざるを得なかった。普段同じ仲間とばかり行動していると自分たちの至らない部分や欠点には気付かないものである。講習を通し、異なった組織や技術を体験することで各々の現状を見直す良い機会になったのではないだろうか。

懇親会では登山やレスキューに関する熱い議論が交わされ、いつもに増して楽しいひと時を送る事が出来た。特に近年、消防やボーダー等日山協加盟団体以外の参加者が増加しており、さまざまな情報交換の場となっているように感じる。参加者の中には高校生のリピータもあり講習を盛り上げていただいた。

今回は登山研修所にて講習会を開催した。室内設備についてはこの上ない環境であるが、背反として気象条件による大雪がある。たとえばラッセルが多過ぎてフィールドの講習に支障をきたしたり、交通網に支障をきたしたりする。今年は前回の経験を生かし講習終了前に全員で1時間ほどかけて雪で埋もれた車両のかき出しを行った。おかげで帰りの足を無事確保する事が出来た。

近年常々感じているのだが、受講者には団体加盟以外の方々も確実に時増加しつつある。来年度より公益法人として再スタートが切れようとしている現在、講習会のあり方や委員のスキルアップや委員会のリソース自体見直す時期に来ているのではないだろうか。

(遭難対策副委員長 町田幸男)



第51回 Mountain World

登攀ラッシュの今季パタゴニア

池田常道

前年夏から冬にかけてドライコンディションが続いたため名物のライムアイス（霜氷）が発達せず、今季のパタゴニアはまれにみるラッシュとなった。

南氷陸上のセロ・ムラジョン（2831m）では12月初め、パタゴニア随一の未踏ラインといわれた南東稜が初登攀された。リーズ・ビーヨンらフランス人4名とスペインのペドロ・ディアスによるもので、9日間のカプセル・スタイル。Pilar del Sol Naciente（32ピッチ、1100m、7b A1 WI6 M6）と命名された。

セロ・トーレ（3102m）南東稜は、これまで利用されてきたマエストリのボルトが撤去され、一躍困難なルートに立ち戻った。400本を超える残置ボルトは、昨年1月、これを使わないルートから登頂したヘイドウン・ケネディ（米）とジェイソン・クルック（カナダ）によって上部125本が撤去された（昨年2月号参照）。南東稜に代わってノーマルルートになったのが、これまで比較的困難とみられてきた西壁（1974年フェラーリ・ルート）で、今季の好コンディションにも助けられて、多くが頂上に立った。

スペインのヘスス・アンドレスら3人は11月28日に登頂。12月24日に8人、翌日には20人以上が頂上に立った。このうちコリン・ヘイリー（米）とジョン・ウォルシュ（カナダ）は、北面に回ってトーレ・エガー（2850m）とのコルでビバーク、翌朝、南壁Venas Azulesからエガーを試みた。しかし、頂上まで2ピッチ半のところまで迫ったときに天候が急変、継続登攀を諦め、夜を徹して下降した。さらに元日にも12人が西壁を登った。なかでも、ガブリエル・ファヴァ、ウェニー・サンチェス、ロベルト・トレウ（アルゼンチン）は、西壁オリジナルルートの右手を330mにわたってたどる新ルートを拓いて最終ピッチに合流、Directa Huarpe（M4、95度）とした。14日にはマルクス・プッヒャー（オーストリア）が、希望のコル下の氷河から3時間15分でオリジナルルートをフリーソロ、5時間40分で頂上を往復した。このほか、少なくとも20人が頂上に立ったという。

1月下旬、スロヴェニアのルカ・クラインチとタデイ・クリシェリは、マエストリのボルトを使わずに南

東稜を登った。ヘッドウォール基部までケネディとクルックのラインを採り、前年フリー初登したダーフィット・ラマのバリエーションでフィニッシュした。また、コリン・ヘイリーはチャド・ケログ（米）と組んでコークスクリューを第2登した。南東稜の途中から南壁をトラバースして西壁に出るもので、2008年にオーレ・リードとトリム・セーランド（ノルウェー）が拓いたもの。リードらはライムアイスに妨げられてボルト梯子の出だし70mを利用したが、今回は全くボルトの世話にならずに完登した。

フィッツロイ（3405m）ではホルヘ・アッカーマン（アルゼンチン）とミハエル・レルイェン（スイス）が、冬（7月）から手掛けていた東壁新ルートを11月に完成、Un Mar de Suenos（1200m、7a A3 M4）とした。カルロス・モリーナとイニャキ・クリサト（アルゼンチン）はエル・コラソンの第2登に成功した。

北ピラー西面には2本の新ルートが生まれた。クラインチとクリシェリは1月初めにThe Real Kekekec（6c+ A2）を開拓。ガブリエル・ファヴァら3人も600mにわたる新ルートを拓いた。Mate Porro y Todo lo Demasの右をたどり、3分の2の地点でMate Porro…に合流するもの。Mate Porro…ではサラ・ハートが女性初登攀を記録、マデリーン・ソーキンとケイト・ラザフォード（米）が続いて女性チームによる同ルートの初登攀（フィッツロイ全体では第3登）となった。ブラジルのファビオ・ダフロンとセルジオ・タルタリ、アルゼンチンのルシアーノ・フィオレンツァは北壁をフリーで登った。3つのルートのコンビネーションで、30ピッチ（6c）、Samba do Leaoと命名された。

横山勝丘と増本亮は12月26日～28日、セロ・トーレ北方の稜線にトラバースルートを拓いた。アグハ・ポローネ東稜から取付き、アグハ・シュテファンを経てセロ・ポローネ東峰東稜をたどる合計29ピッチのオールフリー（7a）。このペアはさらに1月、アグハ・ギヨーム（2579m）からメルモ（2732m）を越えてフィッツロイ（3405m）北ピラーに達するCare Bear Traverse第5登も行ったほか、アグハ・ポワンズノ（3002m）南西壁Judgment Dayの第2登（フリー初登）も果たした。マイキー・シェーファーとジョシュ・ハッカビー（米）はポローネの南方稜線で活動した。アグハC A Tからクアトロ・デドスの4つの頂を越えてインティ、アトチャチラ、パチャママへとトラバースした。ビバークは3回だった。全25ピッチのうち8ピッチが初登攀、ルート名Manos y Mas Manos。

第26回 海外登山女性懇談会

「女性2人西ネパールを語る」

辺疆の地に魅せられた女性たち

2012年12月11日、国立オリンピック記念青少年総合センターで、第26回海外登山女性懇談会が開催された。会場は立ち見も出て、熱気のこもった懇談会となった。

今年のテーマは西ネパール。現在では、ネパールにも近代化の波が押し寄せつつあり、ネパールは、かつて秘境と呼ばれたときの状態ではない。しかし、チベット自治区と国境を挟んだネパール西北部にあたるトルボ地方やムスタン地方の地域では、いまでも個性的な自然が色濃く残り、伝統的なチベット文化のもと、辺疆と呼ぶに相応しい環境の中で人々が暮らしている。

この地は、外国人としてはじめて入った河口慧海や、川喜田二郎探検隊など、歴史的には日本との縁も深い。いまでは入山する登山隊も少なく、200座ほどある6000m峰のほとんどが無名峰という「無名峰のそびえる国」である。

近年、詳細な地図も存在しないこれらの地域を、大阪山の会・大西保氏や、日本ヒマラヤ協会・岩崎洋氏らが丁寧に踏査し、記録が整いつつある。

今回の女性懇談会は、そんな辺疆の地に魅せられた2人の女性登山家に話をしてもらった。ヒマルコ・キティ登山隊隊長、吉田智美（41歳）さんと、カルマロン登山隊（メラピークKOB E大杖哲司隊長）隊員の加藤孝子（64歳）さんである。

ミッションをもった45日間の山旅

吉田智美隊長率いるヒマルコ・キティ登山隊は、いわゆるアラフォー世代の女性ばかり3名で構成された登山隊。この計画のためにパーティーを組んだという。2012年8月10日に日本を出発、カトマンズを経て、デネイDunaiよりキャラバンを開始。メンバー3名、シェルパ1名、キッチンポーター2名、カッチャ

ル5頭の小さなキャラバンだった。

スリ・ガット沿いにトルボ地方を北上し、その後シーメンよりトルボ地方を東へ横断、ムスタンとチベット国境にそびえるアルニコチュリ（6039m）をめざし、最後はトゥジェ・ラよりカグベニを経てジョムソンに戻った。日本帰国は10月15日、45日間の旅だった。

この山旅に、彼女たちは「すこし原始的（昔の遠征）なスタイルを真似てミッションをもって挑戦した」という。

そのひとつは、シェー・ゴンパで12年に一度だけ開催される、チベット仏教の大祭に参加すること。そしてアルニコチュリ（6039m）、無名峰（6000m）の登頂をめざすこと（アルニコチュリには残念ながら届かなかったが、6089mの無名峰には9月15日に登頂成功できた）。そして自分たちなりの冒険のスタイルを遂行すること、だった。

とくに遠征スタイルについてはこだわった。シェルパとの水平なパーティーシップ、女性の自立した登山力を意識すること。チャルカ村より、登攀用具以外の装備は自分たちで背負った。テントは4人用1張り。食料5日分。共同装備のスノーバーなどはシェルパが持ってくれたが（フィックス・ロープは使用せず）、トップはシェルパと吉田隊長が交代でルート工作了。冒険の楽しさは、そうやってこそ生きる、と3人で考えたのだ。

知られざるヒマラヤをめざして

もうひとりの発表者、加藤孝子さんが隊員として加わったカルマロン登山隊（カルマロンとは、西北ネパールのムグ地方をさす呼称）は、大杖哲司隊長（56歳）以下、メラピークKOB Eの女性メンバー2人に、加藤さんを加えた4人のパーティー。加藤さんが最年長者で、唯一他会のメンバーだった。2011年5月26日

みんなで遊ぼう！那須甲子雪遊び隊

子ども達の雪遊びイベントを1泊2日で開催します。

期 日 平成25年3月27日(水)～28日(木)

場 所 国立那須甲子青少年自然の家

内 容 かまくら作り、そり遊び、雪上ゲーム、植物の芽吹き観察、那須甲子高原の散策など

募 集 小学生30名(先着順)

参加費 1人3,500円(保険料、宿泊食事1泊3食)

申込み 日山協事務局(電話：03-3481-2396)

憧れの世界最高峰展望とシェルパの里を訪ねる

エベレスト展望トレッキングと
シェルパの里 9日間

●発着地 東京・大阪・名古屋・福岡

●出発日 3/16(土)・3/23(土)・3/29(金)・4/6(土)・4/13(土)・5/4(土)

●旅行代金 ¥298,000～¥314,000

※燃油サーチャージ(2012年12月20日現在:目安約40,000円)が別途必要です。



ALPINE TOUR サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

に日本を出発、帰国は8月25日。じつに90日間にわたる長い遠征となった。出発直前に東日本大震災が起き、遠征実行の意義や決意を新たにしたという。

旅の目的は大きく分けて2つあった。前半のコジ・コーラ上流部における6000m峰2座の登頂。そして後半1カ月間にわたるトルボ地方のトレッキングだった。コジ・コーラでは、7月3日、大阪山の会につぐ6159m峰の第2登に成功。また1週間後の7月10日に6022m峰の初登頂に成功、カルマ・カン（業の山）と名付けた。2座とも難易度はさほどないものの、完全に岩と雪、氷の世界の登攀だった。

一方、登山終了後のトルボの旅は、山々を見渡す森、草原、花々、そしてそこに暮らす人々の生の営みを見つめる旅になったという。ヒマラヤ越えのキャラバンがたてる鈴の音、女、子どもを含む一家総出の隊商ともすれ違った。

加藤さんは「遠征を通して、私の心の中に強く残ったのは、寄宿させてもらった山里の家の主婦の姿でした。淡々として揺るがない強さに感動しました」と。

海外高所登山の新たな可能性

2隊の報告はたいへん充実したものだった。とくに3つの点において際だって魅力を感じた。ひとつは、

西ネパールの風土の豊かさだ。生活に根ざしたチベット文化や宗教、河口慧海の足跡などの歴史も含め、日本の風土につながるものを感じる。

2番目には、2隊に共通する計画に対する高い目的意識。辺疆の地への光のあて方、旅の目的、方法、旅の中における登山の位置づけなど、どれをとっても自分たち独自のスタイルを貫こうとしていること。

3つめは、それでいて計画に固執することなく、現場の状況次第で、計画を組み替えていく軽やかさがあること。そのためキャラバンの規模はきわめて慎ましい規模となっている。

これらの計画の豊かさの背後に、永年、西ネパールに着目してきた大西保さんらの助言や支えがあったことは見逃せない。

ヒマラヤ高所登山の世界に、想像力と高度なクライミング技術を必要とするアスリートの登山が存在する一方で、地域の文化や風土にまなざしを向けた登山、自らの生き様を重ねていくような登山、そういう世界観そのものを計画していくような登山の領域が、育ちつつあることを感じさせてくれた。

(国際常任委員 鈴木百合子)

日本の山岳シリーズ切手・第2集が発行

日本山岳協会顧問 田中文男

特殊切手「日本の山岳シリーズ第2集」が本年2月22日に発売される事になった。前回の第1集“秋の風景”の売れ行きが好調なので、もう少し早く発行して頂くべく、色々交渉をしていたが、様々な記念切手が目白押しで少々間が空いてしまった。

今回の切手は“春の風景”で、静岡県側から見た富士山(撮影・坂本春治)、茨城県・筑波山(撮影・岩渕史朗)、岐阜県・笠ヶ岳(撮影・木下喜代男)、滋賀県・伊吹山(撮影・中村憲一)、香川県・飯野山(撮影・曾我忍)、宮城県・蔵王連峰(撮影・市川傳)、山形県・月山(撮影・山梨勝弘)、埼玉県・両神山(撮影・新海良夫)、大阪府・二上山(撮影・宮崎一之)、大分県・くじゅう連山(撮影・佐藤尚)の10県の山が採用された。

また、各都道府県山岳連盟(協会)に原画となる写真提供の依頼をさせて頂いたが、5県の方の提供写真が採用となり、残り5県は郵便事業会社が独自のルートで探し出してきた写真が採用となった。

今回の第2集は平成24年度の事業なので、

平成25年度内には、「冬の風景」で第3集の発行が予定されている。1年に1回の発行なので、47都道府県の山が全部出揃うには、まだ時間がかかるが、郷土を代表する山を切手化できるのは今回が初めて。今後とも提案者としてご協力をお願いしたい。なお、総合デザイナーは東京芸大出身で切手デザイナーとして著名な丸山智氏。



第3回日本山岳グランプリを受賞して

私は、昭和50年から平成14年までの27年間にヒマラヤ登山(4ヶ国)を25回実施しました。しかし、私自身は一度も頂上に立っておりません。

戦後日本からヒマラヤ登山を目指して入山した人たちは、平成16年までの53年間に約500座・およそ2万人弱と思われます。(個人情報保護法制定以後は省きます。)

初めにヒマラヤ登山における日本人の遭難の実情を分析し、昭和55年から遭難防止対策の資料提供を行いました。日山協、都岳連、東北海登研、H A Jなどの会議が中心です。次に平成2年に創立されたH A T Jの理事として、環境保護のための一環として、ヒマラヤ登山の「テイクイン・テイクアウト」運動を啓蒙し、その普及に努めました。前出の会議を舞台に10年ほどで登山隊の大半に浸透するようになりました。

3つ目は、標高6,000m以上の約500座に挑戦し、ベース・キャンプまで入山した人たちの氏名を、山別・年度別・隊別に整理しました。それらは「神々の座8,000m峰挑戦の記録」以下、「7,000m峰」、「6,000m峰」と3冊に分け、合計A4版・752頁に纏めました。

4番目には、これらヒマラヤに挑戦した人たちを、A.登頂者(3,089名)、B.登山家(549名)、C.関係者(105名)に分けた人名録を「日本のヒマラヤニストたち」として纏めました。



5番目に、戦後の日本国内の登山死亡遭難事故を、発生順に調査し、「登山死亡遭難事故事例集」として纏めました。約6,000名強が収録されています。

ヒマラヤ登山に挑戦された多くの人たちに敬意を表し、国内で夢破れて帰らぬ人たちに哀悼の意を捧げます。

おわりに私のささやかな仕事を理解し、評価戴き、日本山岳グランプリを授賞して戴いた審議委員並びに日山協執行部の皆様に厚く御礼申し上げます。

(山森欣一)

【山森欣一氏プロフィール】

1944年2月11日、北海道に生まれる。
日本ヒマラヤ協会会長、日本山岳文化学会副会長。
唐沢岳幕岩大凹角積雪期初登攀。1975年ヌン峰(インド)の初遠征から2002年までの27年間に25回のヒマラヤ登山に出かける。
主な著書に『欣ちゃんの山一辺倒』『登山死亡遭難事故事例集』『日本のヒマラヤニストたち』など。



平成24年度1月(25年1月)常務理事会報告

日時 平成25年1月10日(休)
17:30~20:15

場所 岸記念体育会館103会議室

出席者 神崎会長、内藤、國松、八木原、松元副会長、尾形専務理事、仙石、佐藤、石倉、高山、水島、相良、谷口、寺内、永井各常務理事

委任 西内、北山、堀井常務理事、以上15名出席

1. 専門委員会動静

12月常務理事会以降
(12月6日~1月6日)

【報告】

(1)普及・ジュニア委員会

12月14日(金) 出席者3名

ア 委員長・副委員長会議の報告

イ ジュニア・普及情報交換会について

・発表者の確認

・当日の担務について

・開催要項の発送について

ウ 「みんな集まれ!なすかし雪遊び隊」について

・日本山岳遺産基金への補助金申請

・甲子青少年自然の家との打ち合わせ(2/23)

(2)自然保護委員会

12月18日(火) 出席者12名

ア 11月常任委員会・臨時委員会議事録の確認

イ 12月常務理事会報告

ウ 関東ブロック自然保護交流会報告(参加者25名)

エ 委員長・副委員長会議報告

オ 山岳自然保護の集い中央大会(第37回自然保護委員総会改称)について

・名称の決定

・開催期日・場所:平成25年9月14日~16日、埼玉県立小川げん

訃報 史占春先生ご逝去



中国登山協会元主席の史占春氏が1月27日16時に北京同仁病院にて逝去されました。享年85歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

史占春氏は、1928年2月遼寧省遼陽市に生まれ、1945年5月革命工作に参加、47年10月中国共産党に入党。北安鉄道局労働組合宣伝部長を皮切りに中華全国労働組合体育部課長などを歴任された後、58年に国家体育運動委員会に転勤。国家体育運動委員会登山課課長、中国登山隊隊長、訓練競技三部副部長、中国登山協会主席などを歴任された後、92年10月に引退された。

史氏は1955年ソビエトへ登山技術の研修に赴いた後、中華全国労働組合登山隊の成立に参加され、新生中国登山事業の創業者とされた。56年4月には中国の最初の登山活動となった太白山に31名の隊員を率いて登頂。56年7月には中ソ合同隊でムスターグ・アタに登頂。翌57年には四川省のミニヤ・コンガに登頂した。

1960年にはチョモランマ登山隊を率いて5月25日、王富州、貢布、屈銀華の3人を世界最高峰に登頂させた。この快挙は全国体育運動の名誉称号である「紅旗単位」に評価された。

75年には再度チョモランマに挑み5月25日潘多(バンドウ)女史ら9名に登頂させている。

1978年から中国の山を諸外国に開放する改革開放に尽力され、80年からの開放に漕ぎつけた。

日本とは80年の開放時から関わりが深く、85年ナムナニ、92年ナムチャバルワの日中友好登山隊や88年の中国・日本・ネパール三国合同チョモランマ/サガルマータ登山隊で総隊長を務められた。

本協会では82年のチョゴリ登山隊で起こった“今井田事件”で費用の支払いを猶予していただくなど大変お世話になった。

史氏はこれら登山のみならず訓練競技三部副部長時にはショートトラックスケート種目も担当され、女子チームの強化に尽力され冬季五輪や世界選手権でのメダル獲得に貢献した。

2月2日、革命戦士の眠る八宝山霊場(北京)で行われた葬儀には神崎会長が参列した。

(記 尾形好雄)

- き プラザ
- ・実行委員会(関東ブロック)規約、趣意書、役員構成について
- カ 次年度以降の活動の方向転換について
- ・ConservationからMountain Protectionへの方向を明確にした活動展開
- ・他委員会との連携活動について
- キ 自然保護指導員関係について
- ・減少対策に向けた施策の立案
- ・グリーン・カード・腕章の刷新の件
- ク 山岳団体自然環境連絡会報告(12/17、労山事務局)
- ケ 近畿地区山岳連盟総合会議報告(12/8、滋賀・白汀苑)

- (3)遭難対策委員会
- 12月19日(水) 出席者8名
- ア 技術検証会(ロープ強度試験)報告の件
- ・12/1～2、国立登山研修所、参加者22名
- ・フォロワー確保時の衝撃加重
- ・オートロック機能を持つビレイデバイスの反転検証
- ・2名ラペリング時の負荷抵抗計測
- イ 積雪期レスキュー講習会について
- ・講師の割り振りについて
- ウ 委員長・副委員長・事務局長会議の報告
- エ 平成25年度事業計画について
- ・総会は関西地区で開催

- ・レスキュー講習会は、国立登山研修所(夏)と土合山の家(冬)で実施
- オ その他
- ・ジュニア登山教室「雪遊び」篇(3/27～28、那須甲子青少年自然の家)
- ・オーバーナイトテントフォーラム(4/20～21、長瀨)
- ・常任委員研修会(5/11～12)
- (4)競技委員会
- 12月20日(木) 出席者8名
- ア 12月常務理事会報告
- イ 委員長・副委員長・事務局長会議報告
- ウ 第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の準備について
- エ 2012クライミング日本選手権大会の準備について
- オ 国体後催催の準備状況について
- ・愛媛：12/17～18、正規視察(西条市)
- カ ブロック別研修会について
- キ 山岳競技規則集の内容検討について
- (5)指導委員会
- 1月7日(月) 出席者11名

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和田峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- ・陣馬山トレイルレース実行委員会
- ・上野原トレイルレース実行委員会
- ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭



ご存知
ですか？

～日本山岳協会山岳共済会会員様限定～ 「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険」のおすすめ

約52%
割引!!



（正式名称：傷害総合補償保険特約付普通傷害保険）

●このチラシは保険の特徴を説明したものです。詳細はパンフレット「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険のご案内」をご覧ください。（パンフレットは日山岳協会山岳共済事務センター宛ご請求ください。）

この保険の主な補償内容

- ・登山中のケガで死亡された場合（※加入タイプによってはケガによる入通院を補償対象とすることができます。）
- ・登山中に遭難し、遭難・捜索費用や救済者費用が発生した場合 等
- ・なお、登山・ハイキング中だけでなく、日常生活や業務中に起こった傷害事故も補償の対象となります。

この保険のご加入条件

- この保険は「日本山岳協会山岳共済会」が契約者となる団体傷害保険です。お申込人（＝被保険者（補償の対象者））となる方は「日本山岳協会山岳共済会会員」となります。
- 会員になる為の手続き方法は、山岳共済会ホームページ掲載の「山岳共済会のおしり」をご確認ください。（毎年別途会費が必要です。）

補償内容・保険料表（詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。）

～「登山コース」の保険料例～

職種級別 A

（1）保険始期日が4月1日の方

入院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間*で入院は171件、通院は304件のお支払い
事実がありました。（*平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績）
1Bセット・1Cセットなら、1年間1万円前後の保険料でケガによる
入院にも備えることができます!



保険金額 タイプ名	＜「登山コース」＞							
	契約基本タイプ							
	1S	S	1B	B	1C	C	1E	E
死亡・後遺障害	100万円	100万円	159万円	159万円	235万円	235万円	500万円	500万円
遭難捜索費用	100万円	100万円	150万円	150万円	200万円	200万円	500万円	500万円
入院保険金日額	1000円		1000円		1500円		2500円	
入院を伴う手術保険金※1	○	なし	○	なし	○	なし	○	なし
通院保険金日額	600円		600円		900円		1500円	
賠償責任	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円
保 険 料	6,450円	3,900円	8,260円	5,710円	11,540円	7,720円	23,940円	17,570円

※1 手術保険金は、入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払します。

～「ハイキングコース」の保険料例～

職種級別 A

（1）保険始期日が4月1日の方

通院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間*で入院は171件、通院は304件のお支払い
事実がありました。（*平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績）
IIセット・新設のIIIセットなら、ケガによる通院にも備えることができ
ます!



保険金額 タイプ名	＜「ハイキングコース」＞		
	契約基本タイプ		
	I	II	III
死亡・後遺障害	150万円	250万円	300万円
救済者費用	300万円	300万円	500万円
賠償責任	1億円	1億円	1億円
入院保険金日額	2,000円	4,000円	5,000円
入院を伴う手術保険金	入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払いします。		
通院保険金日額	なし	1,500円	2,500円
保 険 料	2,140円	5,470円	7,540円

新設しました!

- 「登山コース」は、ピッケル、アイゼン、ザイル等の登山用具を使用する登山中の事故を対象としております。一方、「ハイキングコース」は前記の登山用具を使用しない普通の登山（ハイキング等）中の事故を対象としています。
- このチラシの保険料は一例です。ご加入者様のご職業によって保険料が異なります。詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。
- どのタイプでもご加入できますが複数タイプ・セットのお申込みはできません。（全ての加入タイプ・セットのうちいずれか一つのみ選択可能。）
- 保険金額はご加入いただいた被保険者の人数に従った割引率で決定されますので、募集の結果上記と異なる保険金額に変更される場合があります。この場合、死亡・後遺障害保険金額を割引率に応じた金額とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- 保険期間は平成25年4月1日～平成26年4月1日となります。毎月、パンフレット掲載の所定の日付での中途加入も受け付けております。

お問い合わせ及びパンフレット請求先：日本山岳協会山岳共済事務センター

月～金 10:00～17:00（土・日・祝祭日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

電話 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

Eメールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ホームページ <http://sangakukyousai.com>

契約者：日本山岳協会山岳共済会

取扱代理店：瀬田工業有限会社

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

承認番号：B12-102339 使用期限：2014.4.1

- ア 12月常任委員会議事録の確認
 イ 12月常務理事会報告
 ウ オフィシャルブックの改訂について
 エ S C指導員養成講習会について
 ・山口後半(12/8～9)：永井、有枝
 ・長崎前半(12/15～16)：永井
 ・長崎後半(1/13～14)：永井
 オ 平成25年度指導員養成講習会アンケートの件
 カ 指導員認定申請
 ・愛媛：A C指導員3名
 ・山口会場：S C指導員28名、
 S C上級指導員1名
 ・富山会場：S C指導員12名
 ・鹿児島会場：S C指導員18名
 ・北海道：A C指導員3名
 キ 指導員養成講習会実施申請
 ・北海道：A C指導員、S C指導員
 ク 氷雪技術研修会(大山)について
 ケ 氷雪技術常任委員研修会(谷川岳)について
 コ 平成25年度事業計画について
 サ ハイキングリーダー制度の中間
 答申について
 シ アスレチックトレーナー受講申
 請について
 ス 平成25年度常任委員候補者につ
 いて
 (6)国際委員会
 1月8日(火) 出席者10名
 ア 海外女性懇談会の報告と反省に
 ついて
 イ 平成24年度海外登山奨励金交
 付登山隊について
 ウ 第51回海外登山技術研究会の
 準備について
 エ 平成25年度事業計画について

2.その他の重要事項

(12月6日～1月6日)

【報告】

- (1)2012年日本勤労者山岳連盟望年
 会 12月7日(金) 於：労山事務
 所 内藤、八木原副会長
 (2)H A J 2012華甲望年会
 12月8日(土) 於：主婦会館プラ
 ザエフ 八木原副会長
 (3)近畿地区山岳連盟総合会議
 12月8日(土)～9日(日)
 於：滋賀・白汀苑
 國松副会長、尾形専務理事
 (4)S C指導員養成講習会

- 12月8日(土)～9日(日)
 於：山口 永井常務理事
 (5)平成24年度海外登山奨励金選考
 委員会 12月11日(火)
 於：スポーツマンクラブ
 八木原副会長、尾形専務理事、佐
 藤常務理事、池田、川瀬、澤田委
 員
 (6)海外登山女性懇談会
 12月11日(火) 於：国立オリンピッ
 ク記念青少年総合センター
 八木原副会長、佐藤常務理事
 (7)全国スポーツ指導者連絡会
 12月14日(金) 於：国立オリンピッ
 ク記念青少年総合センター
 鈴木(由)常任委員
 (8)全国公認スポーツ指導者研修会
 12月15日(土) 於：TKP ガーデン
 シティ品川 鈴木(由)常任委員

- (9)S C指導員養成講習会
 12月15日(土)～16日(日)
 於：長崎 永井常務理事
 (10)第72回愛媛国体正規視察
 12月17日(月)～18日(火)
 於：愛媛県西条市 高山常務理事
 (11)山岳7団体自然環境連絡会及び第
 2回環境省国立公園課との意見交
 換会 12月17日(月)
 於：労山事務所 石倉常務理事
 (12)2012毎日スポーツ人賞表彰式
 12月18日(火) 於：ANAインター
 コンチネンタルホテル東京
 尾形専務理事
 (13)平成24年度日本山岳グランプリ
 選考委員会 12月19日(水)
 於：スポーツマンクラブ
 内藤副会長、尾形専務理事、江本、
 西内委員

寄贈図書

雑誌	東京新聞出版部	「岳人」2013 2月号 No.788
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.934 2013 2月号
DVD	廣川健太郎	「アドバンス山岳ガイド 白馬・鹿島槍/剣」
	(公財)健康・体づくり事業財団	「健康づくり」2013 No.417
	中華山岳協会	「中華山岳」232
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ 自然へ アルク」2013.2・3
	岩手県山岳協会 参与会	「山のたより」第49号
	福岡山の会	「せふり」No.354
	兵庫山岳連盟	「兵庫山岳」第547号
	新潟山岳協会	「新山協ニュース」第301号
	やまびこ山想会	「やまびこ」第145号
	横浜山岳会	「山」967号
	(財)富山コンベンションビューロー	「とよま夢大陸」Vol.91
	Corean Alpine Club	「山」Vol. 227 2012 December
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第494号
	(独)日本スポーツ振興センター	「国立競技場」Vol.595 2013.1-2
	(公財)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2013 No.279
会	FEEC	「Vertex」No.245 2012Nov-Des
報	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.456 2013 2月号
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」2103 01-02 Vol.5
	(公社)国土緑化推進機構	「グリーン・モア」2013 Vol.60
	Korean Alpine Federation	「山」Vol.228 2013 January
	(公社)日本山岳会	「山」No.812 2013年1月号
	茨城県山岳連盟	「茨城岳連」第32号
	東京野歩路会	「山嶺」vol90 No.995
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース」「体協フェアプレイニュース」2013年1月21日号
	(一財)国立公園財団	「国立公園」706-710
	三重県山岳連盟	「三重県山岳連盟会報」第40号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第395号
	(公社)日本山岳会自然保護委員会	「木の目 草の芽」第102号
	(公財)埼玉県体育協会	「スポーツ埼玉」2013 Vol.259
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞」第203号
	韓国山岳聯盟	「大山聯」2013 January Vol.169

- (14)平成24年度JOC/NF国際担当者フォーラム 12月19日(水)
於：味の素ナショナルトレーニングセンター 小野寺事務局員
- (15)第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会
12月22日(土)～23日(日)
於：加須市中央体育館 神崎会長、八木原副会長、高山、谷口、北山、寺内常務理事
- (16)プロジェクト・チーム打合せ
12月26日(水) 於：岸記念体育館505号室 神崎会長、國松、八木原、松元副会長、尾形専務理事、相良、西内、仙石常務理事、小野寺事務局員
- (17)仕事納め 12月27日(木)
- (18)2012クライミング日本選手権「マムートカップ」
1月5日(土)～6日(日)
於：東久留米スポーツセンター 神崎会長、北山、高山、寺内常務理事
- (19)仕事始め 1月7日(月)
- (20)モンベル展示会 1月8日(火)
於：都立産業貿易センター 尾形専務理事
- (21)国立登山研修所専門調査委員会
1月9日(水) 於：国立競技場第1会議室 尾形専務理事

3.議事

- (1)平成24年度12月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)プロジェクト・チームとワーキング・グループについて(提案通り承認)
- (3)新春懇談会功労表彰候補者について(提案の10名を承認)
- (4)平成24年度海外登山奨励金交付登山隊について(承認)
- (5)第3回日本山岳グランプリについ

- て(承認)
- (6)第9回ワールドゲームズ大会への選手派遣とワールドゲームズフェアの協力について(提案通り承認)
- (7)報告事項
ア 会計月次報告
イ 新春懇談会及び顧問・参加会について
ウ 平成25年度事業計画と予算について
エ 個人会員アンケートの結果について
オ 2012クライミング日本選手権大会について
カ 第3回全国高等学校選抜クライミング選手権大会報告
キ 平成25年度山岳共済会葉と山岳遭難捜索保険の案内書について
ク 愛媛国体正規視察(西条市)報告

4.後援、協賛等の依頼について
なし

5.報告

- (1)自然保護指導員の承認
なし
- (2)指導員の認定承認
①SC指導員
・山口会場：稲毛晶、山崎優、梶原哉子、長元千晴、永田秀史、蒲谷和弘、氏原昇吾、山本隆志、乃一広志、鎌倉正典、岡見泰輔、玉井隆寛、中山絵里香、石黒照章、阪井学、富田一志、石津尊明、曾田和彦、松本卓也、錦織宏美、大島修子、村谷卓之、浦部幸恵、原田希有子、土本慎也、山田佳範、笹岡和広、佐藤建、以上28名を承認
・富山会場：岸健次、吉村久史、加

- 藤大治朗、廣重敏、牧田康弘、藤田裕子、畑中渉、藤岡博和、横江春子、嶋村透、新山栄一、橋場友祐、以上12名を承認
- ・鹿児島会場：斎藤弘毅、藤坂正史、高吉政和、田尻廣明、江口智、藤山明彦、池水久美、香取明宏、床本安弘、時任亮、岡田めぐみ、新栢希美、宮内冴子、桐野奉子、川端夕、斎藤美奈、小田智美、白澤洋子、以上18名を承認
- ②SC上級指導員
山口会場：安井博志を承認
- ③アルパイン指導員
・愛媛：川田純子、塩田康夫、重川真粧美、以上3名を承認
・北海道：新井孝、新井素子、朝日田久美子、以上3名を承認
- ④アルパイン上級指導員
なし

6.連絡事項

- ①平成24年度2月常務理事会
2月7日(水)17:30～(岸記念体育館103号室)
- ②平成24年度評議員会
2月17日(日)10:30～14:30(TKPカンファレンスセンター)

編集後記

梅の便りがようやく聞こえてきた。近所から見える富士山は白衣をまとい立派だ。
JMAは4月より公益社団法人として船出、かじ取りと漕ぎ手がうまくかみ合って大海原に臨むことになる。会員相互の協調と調和、そしてJMAの理念と強いリーダーシップが求められている。(広報担当 水島彰治)

こよみ
3月10日(日)
第2回理事会・臨時総会
4月1日(月)
公益社団法人設立登記
4月11日(木)
常務理事会
5月11日(土)
理事会
5月26日(日)
総会

登山月報 第527号
 定価 100円(送料別)
 予約年間 1,200円送料共
 発行日 平成25年2月15日
 発行所 東京都渋谷区神南1の1の1 岸記念体育館内 社団法人日本山岳協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395